

2020年度 事業報告

自 2020年4月1日

至 2021年3月31日

助成事業（公益目的事業1）

1. 芸術文化活動への助成

(1)助成事業として、下記のとおり助成金を支出しました。

2020年度 助成件数・助成額

分野	項目	件数	助成額
美術	美術展覧会への助成	27件	1,750万円
	美術研究への助成（出版助成）	1件	100万円
音楽	音楽公演への助成	24件	1,310万円
	音楽研究への助成	10件	220万円
合計		62件	3,380万円

新型コロナウイルス感染症の影響により、助成予定の企画に延期・中止（損害補填）が多数発生しました。2020年度内に開催が出来なかった企画に対しては、2021年度に16件760万円の支出を予定しています。

2. 科学技術研究への助成（花王科学奨励賞）

(1)助成事業として、下記のとおり助成金を支出しました。

2020年度 助成件数・助成額

分野	件数	助成額
表面の科学「化学・物理学」分野	5件	1,000万円
表面の科学「医学・生物学」分野	5件	1,000万円
合計	10件	2,000万円

花王科学奨励賞贈呈式および前年度助成対象者による助成研究成果発表会・交流会は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止し、代わりに「助成研究成果抄録（PDF）」を当財団WEBサイトに2ヶ月間公開しました。

3. 大学院（修士課程）に通う学生への奨学支援（花王佑啓奨学金）

(1) 対象となる大学院生（修士課程）に下記のとおり奨学金を支出しました。

2019年度採択（第3期生） 人数・奨学金

対 象	人 数	奨 学 金
大学院生（修士課程）2年	5名	300万円

2020年度採択（第4期生） 人数・奨学金

対 象	人 数	奨 学 金
大学院生（修士課程）1年	7名	420万円

(2) 奨学生の皆さんへの激励と、化学を学ぶ奨学生同志の横の繋がりを醸成することを目的として、2020年9月13日にオンライン懇談会を開催しました。

顕彰事業（公益目的事業2）

1. 科学技術研究の顕彰（花王科学賞）

(1) 2020年6月19日、2019年度の花王科学賞贈呈式を開催予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止しました。受賞者2名にはそれぞれ正賞(賞状)並びに副賞(金300万円)と記念品を発送にて贈呈しました。

<2019年度 花王科学賞 受賞者>

化学・物理学分野	<small>たかしま よしのり</small> 高島 義徳 氏	大阪大学高等共創研究院・大学院理学研究科 教授
超分子特有の架橋構築による革新的材料設計学の創成		
医学・生物学分野	<small>すぎむら かおる</small> 杉村 薫 氏	京都大学 高等研究院 特定拠点准教授
上皮組織発生の力学制御の解明		

(2) 2020年度の顕彰対象者の応募の中から、2021年1月19日及び2月12日開催の選考委員会で選考の後、3月1日開催の理事会で下記の通り決定しました。

<2020年度 花王科学賞 受賞者>

化学・物理学分野	かわい しげき 川井 茂樹 氏	物質・材料研究機構 先端材料解析研究 拠点 グループリーダー
プローブ顕微鏡を用いた単分子の操作と局所化学合成		
医学・生物学分野	くはら あつし 久原 篤 氏	甲南大学 理工学部 教授
皮下神経や腸を介した温度感知・応答の分子組織ネットワーク		

その他の関連事業（公益目的事業 3）

(1) 公開シンポジウム『未来 ～わたしたちにできること～』を企画・開催

当初は 450 名規模での開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、登壇者等を含め 50 名規模にて開催し、後日特別映像版の限定配信を行ないました。未来に対して漠然とした不安がある中、一人一人が視点や考え方を改めて取り組むことによって広がる、明るい未来の可能性について講演・パネルディスカッションを行ないました。

■日時：2020年 11月 21日（土）14:00～17:00

■場所：東京ミッドタウン日比谷 6F「BASE Q HALL」

■応募：一般の方を対象に募集（無料）

■プログラム：

プログラム	
財団理事長 ご挨拶	尾崎理事長
プロローグ（15分）	「今の延長なのか、それとも…」 原島博先生
基調講演①（50分）	「第三の大転換か？」 姜尚中先生
基調講演②（50分）	「新しい自然観を」 落合陽一先生
パネルディスカッション（45分）	姜尚中先生 落合陽一先生 原島博先生 司会：渡邊あゆみ様

動画を当財団WEB上に掲載（1年間）を行なうとともに、講演録（2021年3月刊行）を、関係各所に無料配布、財団WEB上に掲載を行ないました。

以上